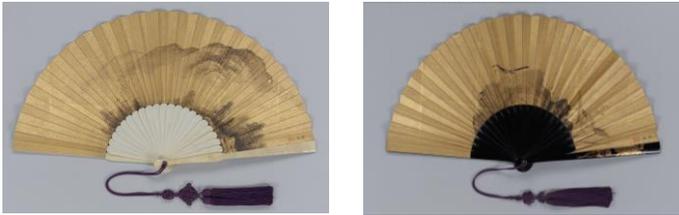
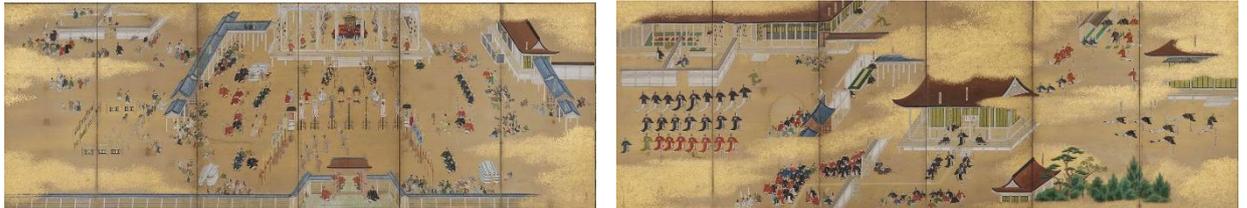


平成 30 年度購入文化財一覧【京都国立博物館】

- 1 ○種 別 〈絵画〉
 ○名 称 暮山図・澤瀉鶴鶴図扇画（ぼざんず・おもだかせきれいずせんめん）
 ○作 者 等 橋本雅邦（はしもとがほう）筆
 ○時 代 明治 38 年（1905）
 ○品 質 絹本金地墨画
 ○員 数 2 握
 ○寸 法 等 暮山図＝16.5×53.9 cm、澤瀉鶴鶴図＝15.5×50.5 cm
 ○作品概要 款記から、橋本雅邦が米国第 26 代大統領セオドア・ルーズベルトへの贈答品として制作したことが判明する稀有な作品。日露戦争終結時、ポーツマス条約締結に際しての米国への斡旋依頼については、岡倉天心が外交上大きな役割を果たしたことが近年明らかになっており、本作は岡倉が講和斡旋に向けルーズベルトと接触するなかで制作・贈呈された可能性が高い。雅邦は前年のセントルイス万博で最高賞を受賞した直後で、骨の蒔絵を手掛けた老舗和紙舗・榛原もウィーン万博以来欧米に知られた存在、さらに箱書によれば牙彫はパリ万博へも出品した彫金家・海野勝珉の手になるものという。文字どおり当時最高の作家たちの技を結集して制作された扇子は大統領への献上品としてまことに相応しい。
- 購入金額 15,000,000 円



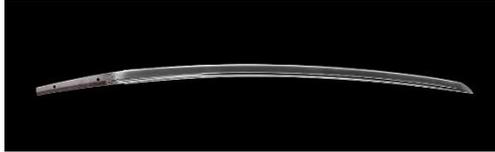
- 2 ○種 別 〈絵画〉
 ○名 称 霊元天皇即位・後西天皇譲位図屏風（れいげんてんのうそくい・ごさいてんのうじょういずびょうぶ）
 ○作 者 等 狩野永納（かのうえいのう）
 ○時 代 江戸時代（17 世紀）
 ○品 質 紙本着色
 ○員 数 6 曲 1 双
 ○寸 法 等 各 90.6×270.8 cm
 ○作品概要 寛文 3 年（1663）4 月に行われた霊元天皇の即位式を右隻に、これに先立つ同年 1 月に行われた後西天皇の譲位の儀式を左隻に描いた屏風。江戸時代に天皇の即位式を描いた屏風はネルソン・アトキンス美術館などが知られるが、現存作例が少なく貴重であるのに加え、本作は画中の建物や人物の多くに付された貼札から主題が明確である点、また作者が明らかである点も重要である。右隻の即位図では、高御座に座す霊元天皇の姿が顔も含め明瞭に描かれており、他の作例にはない本作の大きな特色となっている。東京大学史料編纂所に所蔵される白描模本には九条家との関わりを示唆する墨書が見られ、今後本作の発注者や制作意図等を解明していくうえで注目される。
- 購入金額 27,000,000 円



- 3 ○種 別 〈絵画〉
 ○名 称 松石図（しょうせきず）
 ○作 者 等 葉文舟（しょうぶんしゅう）筆
 ○時 代 中国・清時代 道光 2 年（1822）
 ○品 質 紙本墨画
 ○員 数 1 幅
 ○寸 法 等 縦 130.0cm 横 65.6cm
 ○作品概要 筆者の葉文舟（1741 頃-1827）は福建海澄県の人で、乾隆 51 年（1786）の挙人。福建省の連江や晋江、台湾の嘉義で教諭を歴任した。指に墨をつけて描く指頭画に秀で、松柏をよく描いた。台湾には「松石図」（1819 年、国立台湾美術館蔵）や「松図」（1825 年、台湾・個人蔵）が残されている。本図も指で松樹と奇石を描いており、松の幹や石の皴に打たれた大きな墨点が指頭画の特徴を示す。中国では長らく逸名の画家であったが、戦後、米沢嘉圃氏が美術雑誌『國華』745 号（1954 年 4 月）にて本図を紹介してから、本図は指頭画の大成者、高其佩とは異なる地方様式の作例として知られるようになった。もとは京都の旧家の所蔵であり、近世・近代の日本で流行した指頭画の展開をうかがううえで、貴重な作例のひとつである。
- 購入金額 3,500,000 円



- 4 ○種 別 〈金工〉
 ○名 称 重要文化財 太刀 銘国吉（たち めいくによし）
 ○作 者 等 栗田口国吉
 ○時 代 鎌倉時代 13世紀
 ○品 質 鉄、鍛造
 ○員 数 1口
 ○寸 法 等 全長 91.0cm 刃長 72.5cm
 ○作品概要 鎌倉時代の京都で繁栄した刀工集団栗田口派・国吉の手による太刀。同門の吉光の現存作例が短刀に偏重しているのに対し、国吉は本作を含めた太刀、打刀、短刀と当時の主要な器形全てに作例がある点が重要で、栗田口派と鎌倉時代の京都の刀工について研究する上で欠かせない工人である。この太刀は、国吉の太刀の作例として最も高名なもので、東京国立博物館所蔵の重要文化財「刀 銘左兵衛尉藤原国吉（号鳴狐）」と並ぶ長寸の代表作である。地鉄の精美さと、小乱刃に二重刃が頻りとかかる作行は国吉の典型と言え、同工の技術水準の高さをいかに発揮した名品である。
- 購入金額 40,000,000 円



- 5 ○種 別 〈漆工〉
 ○名 称 梨撫子蒔絵楊弓箱（なしなでしこまきえようきゅうばこ）
 ○時 代 江戸時代（18世紀）
 ○品 質 木製、漆塗、蒔絵、象牙、絹、羽、銅、唐木、紙ほか
 ○員 数 1具
 ○寸 法 等 縦 36.4cm 横 14.2cm 高 10.6cm
 ○作品概要 室内遊戯の一種、楊弓のための諸道具を収める箱。参加者のマークや順番を決める象牙製の籤、矢を引いた回数を記録する唐木製の板、刀装のような高級な彫金を嵌めた組み立て式の弓、羽を美しく染めた矢、的を射たときの点数を記録する算盤、金更紗で表装された点数の早見表のみならず、賭け事として楽しめるように、掛け率を決める札、「字」と呼ばれる金銀の紙に包まれた寛永通宝なども納める。外出のままならない高貴な人々が屋内遊戯に興じ、その道具を美しく飾って楽しんでいたことを如実に語る。内容品を納める小箱を含め、総梨地の豪華な蒔絵で飾られており、紀州徳川家旧蔵という伝承にかなうような稀に見る豪華さの楊弓箱である。
- 購入金額 8,000,000 円



- 6 ○種 別 〈漆工〉
 ○名 称 ドミティアヌス帝の模擬海戦場図蒔絵プラーク（どみていあぬすていのもぎかいせんずまきえぷらーく）
 ○作 者 等 推定笹屋製
 ○時 代 江戸時代（1780～90年代）
 ○品 質 銅製、漆焼付、蒔絵
 ○員 数 1枚
 ○寸 法 等 縦 16.8cm（+金具 2.2m） 横 25.5cm 高 0.5cm
 ○作品概要 銅板に黒漆を焼きつけ、西洋の銅版画の図を金蒔絵で写した壁飾り。18世紀末に、オランダ東インド会社の商館長や出島付きの医師らの注文によって輸出用商品として日本で制作されたシリーズの一枚。金と青金の平蒔絵や付描で、銅版画に特徴的なクロスハッチングと呼ばれる細かな線描もうまく模し、白黒の図を黒と金のモノトーンに置き換えることに成功している。背面には仏文で「ドミティアヌス帝の模擬海戦場、すなわち海戦の再現のためにテブレ川のほとりに掘られた池」とあり、図も題字も1750年から40年間に渡って重版された世界史の全集の挿図、それも1771年の第二版が原画であることがわかる。類品には、京都の漆器商、笹屋が請け負ったと記されたものもあり、オランダ商人と京の漆器商が協力して制作した商品として注目される。
- 購入金額 2,000,000 円



- 7 ○種 別 〈染織〉
 ○名 称 濃茶麻地花車杜若文様染織帷子（こいちゃあさじはなぐるまかきつばたもんようそめぬいかたびら）
 ○時 代 江戸時代（17～18世紀）
 ○品 質 麻（染・織）
 ○員 数 1領
 ○寸 法 等 丈164.0cm 桁57.5cm 袖丈43.5cm
 ○作品概要 帷子とは盛夏に着用する小袖形式の麻地の衣服。江戸時代に黒紅地と呼ばれていたと考えられる濃茶色の地色を背景に、文様部分を糊防染によって防染し、白く残された部分に、黒と臙脂の型鹿の子（摺匹田）や紅・萌葱の刺繍糸と金糸によって文様を表現する。文様は上下に大きく二分されており、上半身には藤と橘を活けた花車を、下半身には流水に杜若を表現する。文様を大きく二分する意匠構成は、帯幅が広がる江戸時代十八世紀前半の小袖意匠の特徴とされている。
- 購入金額 3,240,000円



- 8 ○種 別 〈考古〉
 ○名 称 重要美術品 龍虎獸帯鏡（りゅうこじゅうたいきょう）
 ○時 代 後漢 2世紀
 ○品 質 青銅
 ○員 数 1面
 ○寸 法 等 直径20.5cm
 ○作品概要 中国後漢時代の銅鏡。つまみの周囲に四頭の龍虎の図。その外側に神像と従者・軽業師・龍・虎・獸などの鮮明な画像が施される。銘帯には「池氏作竟真大巧〜」など22文字の銘文を入れている。漢代の神仙思想を反映した鏡。
- 購入金額 2,000,000円



- 9 ○種 別 〈考古〉
 ○名 称 金銀平脱鸞鳳宝相華文方鏡（きんぎんへいだつらんほうおうほうそうげもんほうきょう）
 ○時 代 唐時代（7-8世紀）
 ○品 質 青銅 金・銀・漆
 ○員 数 1面
 ○寸 法 等 辺長11.8cm
 ○作品概要 中国唐代の方形の平脱鏡。銅鏡の背面のくぼみに切り抜いた金銀の文様を漆で塗り込めたのち、表面を研ぎ出して文様を浮き立たせたもの。花文や唐草文、蝶文などの細密な文様が見られる。平脱技法は盛唐期に見られる手法であり、製作技術は高い。
- 購入金額 3,000,000円

